



# ベトナム戦争（上）

一九七五年四月三十日、今でも当日のテレビ、明に覚えている。

続いたベトナム戦争が終わった。

ベトナムを旅するまで、ベトナムから連想するものはベトナム戦争だけであった。

ベトナム戦争が始まったとされる一九六〇年当時、私は二十歳の学生であった。日本も六〇年安保で騒然としていた。

南ベトナム政府軍に対し、南ベトナム解放民族戦線が武力攻撃を開始した。ベトナムの共産化を恐れるアメリカは南ベトナム政府を支援。六五年にはアメリカが北爆を始め、本格的なベトナム戦争に

なった。

圧倒的な軍事力でアメリカが優勢であったが、それに比例してアメリカの北爆に対する批判が世界各地に起こり、日本でも反戦デモが繰り広げられた。

私と同世代の方なら、一人の僧侶が南ベトナム首相府の前でベトナム戦争に反対して焼身自殺した事件を覚えておられるだろう。

強い国際世論に動かされ、北爆開始から八年後の七三年、パリ協定によってアメリカ軍はベトナムから撤退した。

それからわずか二年後に南ベトナムは崩壊したのである。

戦争の規模としては第一次世界大戦、第二次世界大戦より小さいが、投下爆弾量、兵力動員数、死者数などは史上最大だといわれる。

あれから三十五年、訪れてみて表面的には戦争を感じさせるものは

は全くない。

昨年、一緒にベトナム・スタディツアーに参加した友人は「ホーチミン市の繁栄と喧噪（けんそう）」とアメリカナイズされた電飾看板の氾濫（はんらん）は、ベトナム戦争で勝ったのは本当はアメリカではないかとふと疑いをもたされた」というほどである。

もちろんこれは表面的なもので、亡くなった人、残された遺族、ポルトピープルとなつて国を出た人たち、負傷して今も体が不自由な人たち、とりわけ枯れ葉剤による奇形児の問題など観光客の目には見えないものがたくさんある。

しかし観光客が目にするもの、食べるものなどは戦争のことなどは全く感じさせない。一番の変化は南ベトナムの首都であった

「サイゴン」という地名が消え「ホーチミン」になったことである。

元大統領官邸は今「統一会堂」に



る。戦争は戦争証跡博物館や地下にトンネルを掘り、アメリカ軍と戦った「クチトンネル」跡など観光名所になっている。

ベトナムだけでなく世界に大きな影響を与えた十五年間のベトナム戦争。

史実としてはつきりしていることは、アメリカがベトナムに介入し、最盛期には五十五

万人ものアメリカ兵を駐留させ、アメリカ兵だけの戦死者でも五万七千九百三十九人。介入の目的に反し、ベトナムは共産化された。

アメリカにとつてベトナム戦争は何だったのだろうか。アメリカの軍需産業だけは空前の利益をあげたという数字が残されている。

（元山口放送取締役ラジオ局長）



戦争に反対して焼身自殺

「サイゴン陥落」一十五年間も